

# 長野県医労連情報

長野県医療労働組合連合会

No 15

2016年 5月18日

TEL 026-228-9376

FAX 026-224-5745

E-mail: [irouren-nagano@nifty.com](mailto:irouren-nagano@nifty.com)

----- 医療労働者の生活と権利 県民のいのちと健康を守ろう -----

5.14 第28回長野県看護集会 全県から180名が参加

## いのちと平和が一番！いきいきと働き続けられる看護職場を 「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」戦争法は廃止しよう

第27回長野県看護集会は、5月14日（土）JA長野アクティホールで、県下各地から180名が参加して開催されました。開会に先立ち小林吟子執行委員長は「看護の歴史は戦争とともにあった。昨年の集会での講演では先の戦争と看護について学んだ。今年の集会は『いのちと平和が一番！いきいきと働き続けられる看護職場を』をテーマとしている。情勢を学ぶとともに看護の魅力ややりがいを見つめ直し、働き続けられる職場を自分たちの手で実現するよう運動を進めよう」と挨拶されました。

### 「わかること、考えることが看護を深めていく」宮子あずささん講演で

記念講演は看護師で著述業をされている宮子あずささんによる「平和でこそ輝く看護の魅力」。本題に入る前に宮子さんは基調報告でのナースウェーブの歴史にふれ、「1987年から看護師として働き始めた自分は、まさに先輩の築いた看護闘争の恩恵を受けた一人で、その苦労や運動に思いをはせ、若い人にも知っておいてほしい」と語りました。

講演では、看護師の仕事の魅力を「強気に生きられる経済力がある」こと、「臨床では人間の本質に迫る問いと出会う」こと、「続けることで寛容な大人になれる」ことの3点だと話されました。その上で、宮子さんが患者さんにとった対応について、長年自分に問い続けてきた結果「看護とは選択の問題」だという考えに行き着いたと、参加者一人一人に語りかけるように話されました。「日々の看護の中で、患者さんに何もしてあげられなかったと感じる場面は多々あるが、『出来た、出来なかった』だけの評価では看護は深まっていかない。『わかる』こと、『考える』ことが看護を深めていく」と話されました。

### 社会を見つめ、たたかう看護を実践していこう！

また、自民党政権によって脅かされつつある平和の問題について、「安全保障関連法に反対する医療・介護・福祉関係者の会」の呼びかけ人でもある宮子さんは、「平和が脅かされてもなぜたたかわないのか。『自民党でもいい』という人には『自民党改憲草案を見てから決めろ』と言っている。私は50代になってフェミニストナースとして自分を出していくと決めた。たたかうべきところはたたかう。社会を見つめ、たたかう看護を実践していこう」と参加者に強く訴えました。



## グループ交流で看護への思いを共有 「仲間なんだと思えた」

午後の部はグループに別れて交流を行いました。病院や経験年数も様々な参加者同士でしたが、講演を聴いての感想や看護の魅力、現場での不安や現状など、日頃の思いを出し合いました。「自分と同じなんだ、仲間なんだと思える意見交換が出来てよかった」「先輩看護師の悩みや学びを聞くことが出来て参考になった」という若い参加者の声や、「新人さんは自分のやりたい看護像を持っている人が多くすごいと思った。辞めることなく頑張してほしい」「若者、頑張れ！自分の好きな仕事をずっと続けていかれるようにしっかりと声を出そう！」など、ベテランからのエールもアンケートから多く聞かれました。



先輩も新人も日々悩み、考えながら看護に向かい合っている。思いを共有したグループワーク

## 元気よくパレードに出発！署名670筆を集約

集会最後の山場となるパレードと「夜勤改善・大幅増員署名」の宣伝行動は、グループでの意思統一と署名の取り方を寸劇で楽しく学んだ後、コールの練習も全員で行いざ出発。さわやかな晴天の下、街を行き交う人も多く、青空に白衣とカーネーションが輝いていました。半数以上が初めて集会参加であったにもかかわらず、積極的に声をかけながら署名の協力を訴え、参加者からは署名をとる大変さや署名してもらったときの喜びなどが聞かれました。参加者全員の奮闘で、署名は670筆を集約しました。



イメージがつかみやすい！今年も好評だった寸劇の一コマ。女子高生役も頑張った！



## いのちと平和を守るアピール行動！『戦争法は今すぐ廃止！』

看護集会の午後の部と平行して、看護職以外の集会参加者15名は「いのちと平和を守るアピール行動」として長野駅前での「戦争法廃止署名」に取り組みました。平和への思いを参加者がそれぞれ自筆で書いたアピール用紙を署名版に付け、署名の協力を訴えました。長野地域民医労の手作りの黒衣を着た参加者も「医療労働者は戦争協力しません」「戦争できる国作りには反対です」と、マイクを通して訴えました。私たちの行動に賛同しカンパを寄せてくれる市民の方もおり、署名は53筆を集約しました。

